

第1部

序論

計画策定の基礎的な背景

序論

INTRODUCTION

はじめに

1. 計画策定の趣旨

総合計画とは、将来、入善町をどのような「まち」にしていくのか、そのためにどのようなことをしていくのかを、総合的・体系的にまとめたものです。福祉や都市整備、環境といったすべての計画の基本となるもので、まちづくりを進めていくための「道しるべ」といえます。

平成23年に策定した第6次入善町総合計画では、町民一人ひとりが「住んでよかった、住み続けたい」と実感できる輝かしい町を目指し、「扇状地に水と幸せがあふれるまち入善～人のきずなで未来へつなぐ～」を将来像として掲げ、それらの実現に向けた取組みを推進してきました。

第6次総合計画の策定から10年が経過し、その間、本格的な人口減少社会の到来や少子高齢化の進行、高度情報化社会における技術革新、全国的に多発する自然災害など、入善町を取り巻く状況はめまぐるしく変わっています。

また、昭和46年に現在の位置に建築され、半世紀にわたり時代に沿った行政サービスの発信拠点としての役割を担ってきた役場庁舎は、本計画期間に新たな庁舎として移転整備されます。新たな庁舎は、町民の皆さんはもちろん、入善町に関わるすべての人にとって、まちづくりの拠点となり、次の時代を切り拓く様々な施策を発信し続けます。

この時代の潮流の変化を捉えつつ、入善町がこれから対応しなければならない課題や想定される未来を踏まえ、これからの将来を展望し、総合的かつ計画的なまちづくりを進めるための指針として第7次総合計画を策定します。

策定にあたっては、目指すまちづくりの方向性や重点的に取り組む内容をわかりやすく示し、町民と行政が一体となって、目指すべき未来の町の姿の実現に向けて取り組むことを目指します。

2. 計画の位置づけ

総合計画は、10年後の目指すべき町の未来の姿を示し、それを実現していくために、町の取組みを総合的かつ計画的に推進するための計画です。各分野における目標や事業の指針を示す、入善町の最上位の計画です。

各分野で策定する個別計画については、総合計画で示す目指すべき町の未来の姿の実現に向けて設定するまちづくりの方針等を踏まえ、整合性を図りながら策定・推進します。

3. 計画の構成と期間

第7次入善町総合計画は、「基本構想」「基本計画」「実施計画」で構成されています。

また、総合計画は地方創生に関する施策や事業を抽出し策定した、地方版総合戦略を内包しています。

基本構想

町が目指すべき将来像やその実現のためのまちづくりの基本方針などを示すものです。計画期間は令和3年度から令和12年度までの10年間です。

基本計画

基本構想に示すまちづくりの基本方針などに基づいて、基本的な施策や取組みなどを示すものです。計画期間は5年とし、基本構想の10年間の中で、前期計画と後期計画に分けて計画を進めます。

- ・前期計画：令和3年度から令和7年度まで
- ・後期計画：令和8年度から令和12年度まで

実施計画

基本計画で示された基本的な施策などを実現するための具体的な事業を定めるものです。計画期間は3年とし、毎年度、*ローリング方式で事業の見直しを行います。

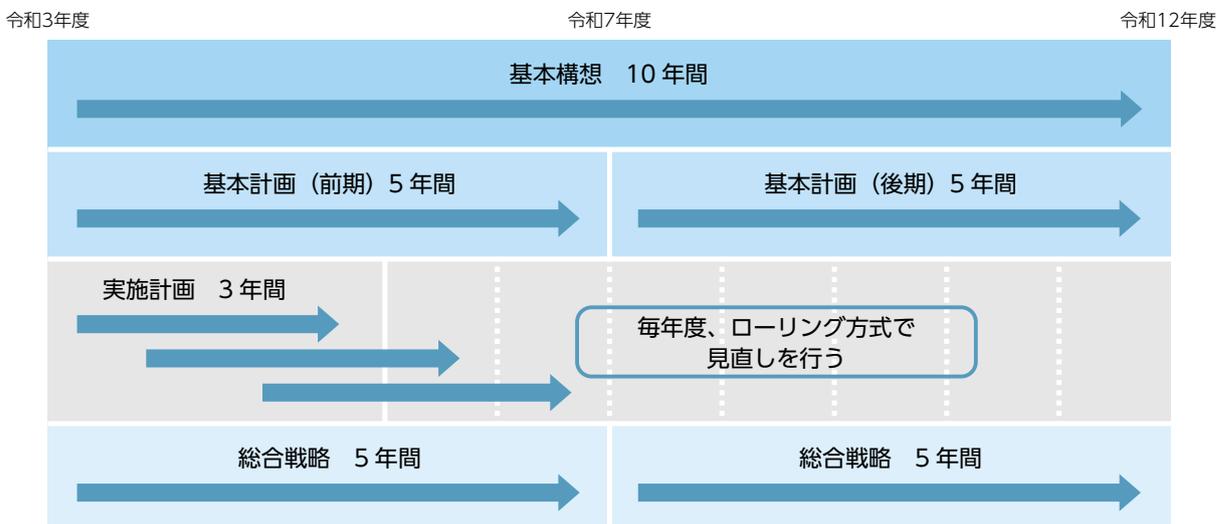
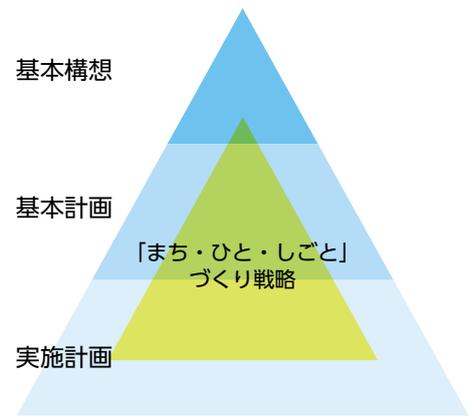
*ローリング方式……現実と長期計画のズレを埋めるために、施策・事業の見直しや部分的な修正を、毎年転がすように定期的に行っていく手法。

にゅうぜん「まち・ひと・しごと」づくり戦略

人口減少問題を克服し、地方創生の実現に向けて集中的に取り組むため、令和3年度から令和7年度までを計画期間とする地方版総合戦略「にゅうぜん『まち・ひと・しごと』づくり戦略」を策定しています。

本計画においても、総合戦略に掲げる基本目標や方向性等を包括的に位置づけ、施策横断的に推進します。

入善町総合計画



I 入善町の現況と今後

1. 入善町の概況

本町は、一級河川黒部川が形成した我が国の代表的な扇状地「黒部川扇状地」の中央に位置し、東に朝日町、南西に黒部市、北は日本海に面しています。

本町の豊かで魅力ある資源の第一に挙げられるのは「水」です。黒部川の水は扇状地の中を伏流水として流れ、湧水となって扇端部で自噴しています。また、扇状地上を流れる豊かで清らかな水は、農業用水として利用されるなど、本町の産業を支え、季節ごとに様々な景色を映し、本町の象徴となっています。

地形は、東西12.2km、南北16.5kmで周囲42.5km、面積は71.25km²です。日本海に面した北側の海岸線は11.5km、それを底辺として南に尖った三角形をしています。



2. 入善町のおいたち

本町は、広大な平野部をもつ稲作地帯ですが、古くはこのあたり一帯は黒部四十八ヶ瀬と称され、親不知とともに北国往還最大の難所として知られていました。この扇状地がいつ頃から開拓されたかは明らかにはなっていませんが、「じょうべのま」遺跡には、平安時代の荘所とみられる建築群がみつかっています。

12世紀前半には東大寺の荘園、入善荘が成立し、南北朝時代には飯野に小佐味荘も存在していました。

その後、椎名、上杉、佐々、豊臣、前田氏によって支配されてきましたが、1658年の領地換えで全域が加賀（金沢）藩領となり幕末に及びました。

明治4年の廃藩置県により本町域は新川県に所属、明治9年には石川県に属していましたが、明治16年に本町出身の県会議員、故米澤紋三郎氏（分県請願委員長）らの猛烈な分県運動により石川県より分県し、富山県となりました。

明治22年3月には町村制実施に伴い、入善町、上原村、青木村、飯野村、小摺戸村、新屋村、櫛山村、横山村の1町7か村となりました。昭和28年10月にはこの1町7か村が新設合併し、新しく入善町が発足しました。昭和34年1月には舟見町（朝日町の野中分離地区が舟見町と合併）が編入合併し、現在に至っています。

3. 統計データや住民の声などから見る入善町の現況

(1) 人口の推移・推計や世帯状況について

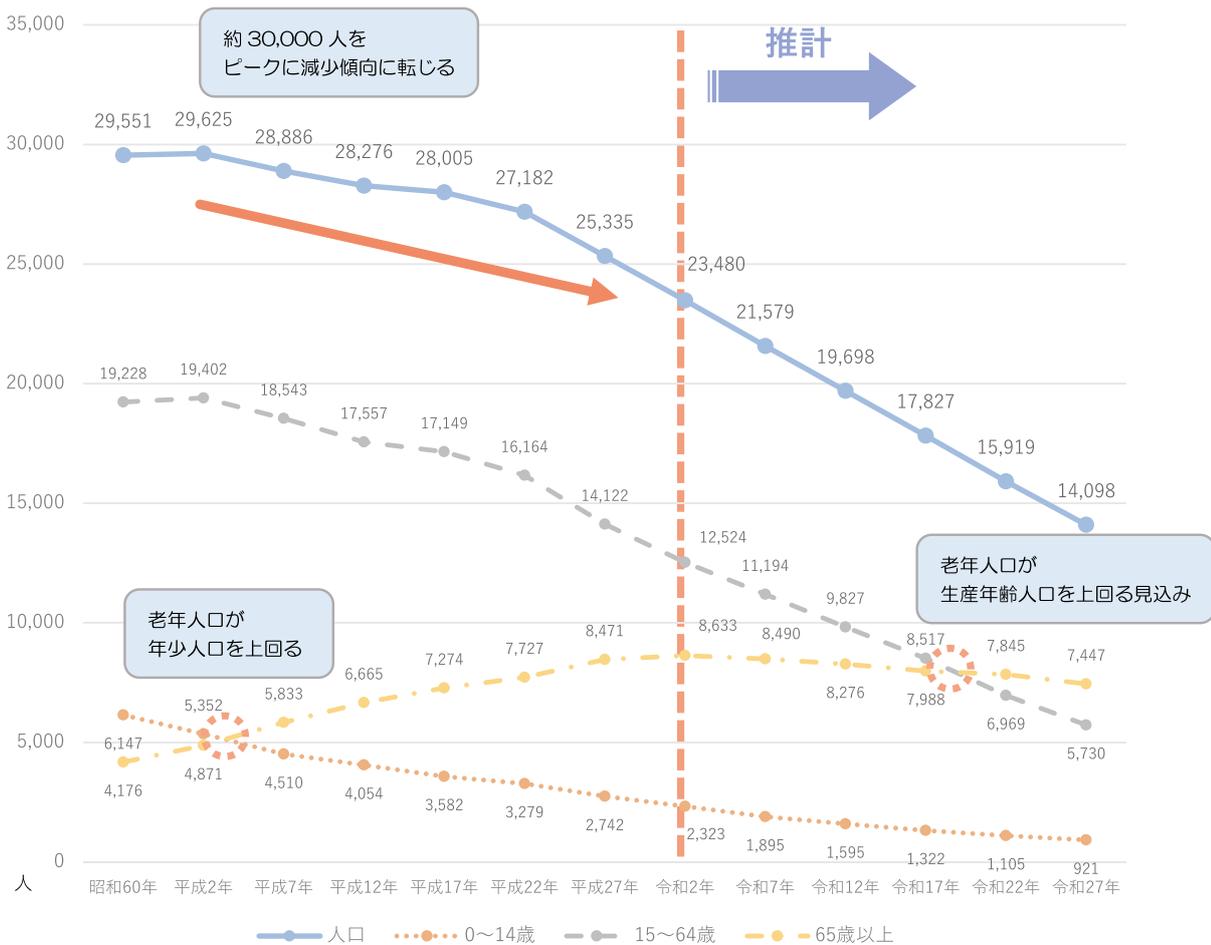
■人口減少と少子高齢化

⇒ 人口減少と少子高齢化がさらに加速すると推計

総人口の推移を見ると、ピークであった平成2年の29,625人から年々人口が減少しており、平成30年6月末には25,000人を割り込むなど、人口減少の傾向は年々加速しています。

さらに、令和22年には、65歳以上（老年人口）が15～64歳（生産年齢人口）の人数を上回り、今後ますます少子高齢化が加速すると推計されています。

【図表】人口の推移と推計



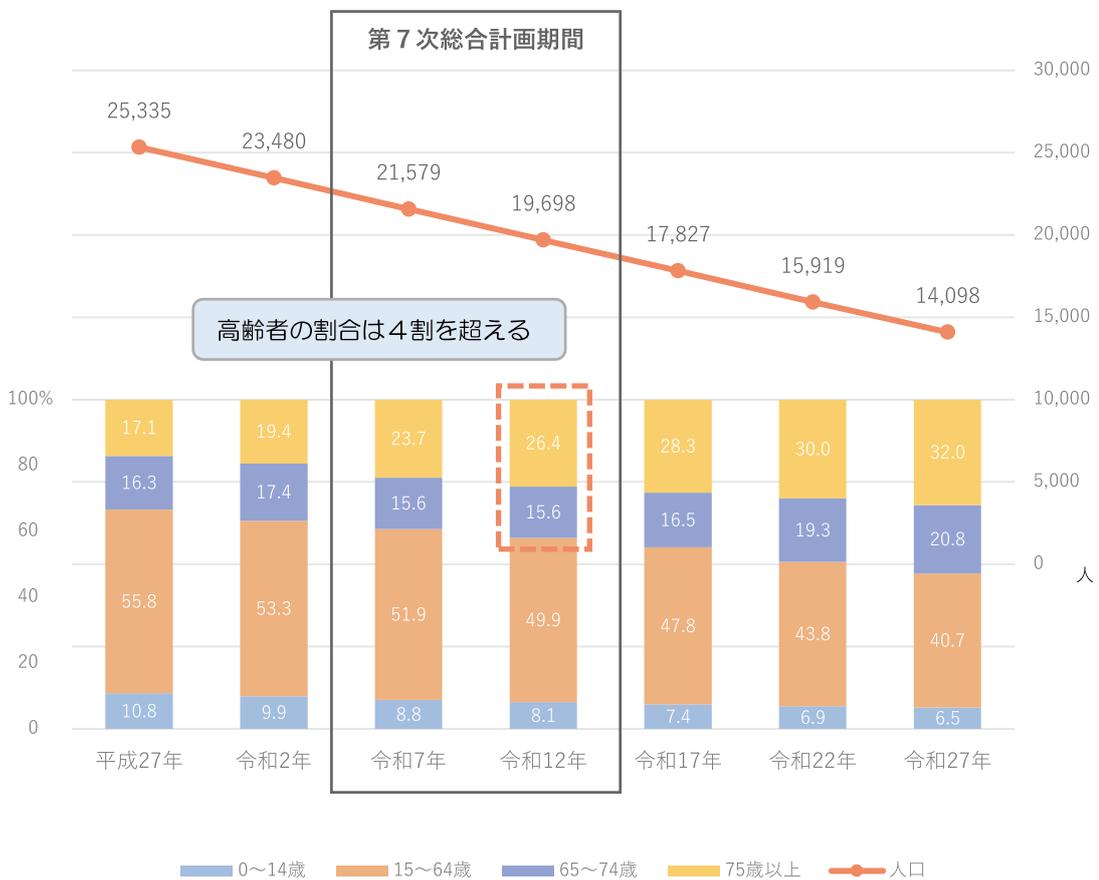
資料：～平成27年 国勢調査
令和2年～ 国立社会保障・人口問題研究所

■高齢者の割合について

⇒ 10年後には高齢者の割合が4割を超え、このうち75歳以上の後期高齢者の割合が6割を超える

令和12年には、65歳以上の割合が4割を超え、このうち75歳以上の後期高齢者の割合は6割を超えます。さらに、10年後の令和22年には、65歳以上が15～64歳の人数を上回るとともに、町民の約3人に1人が後期高齢者になると推計されています。

【図表】 将来人口と人口構成



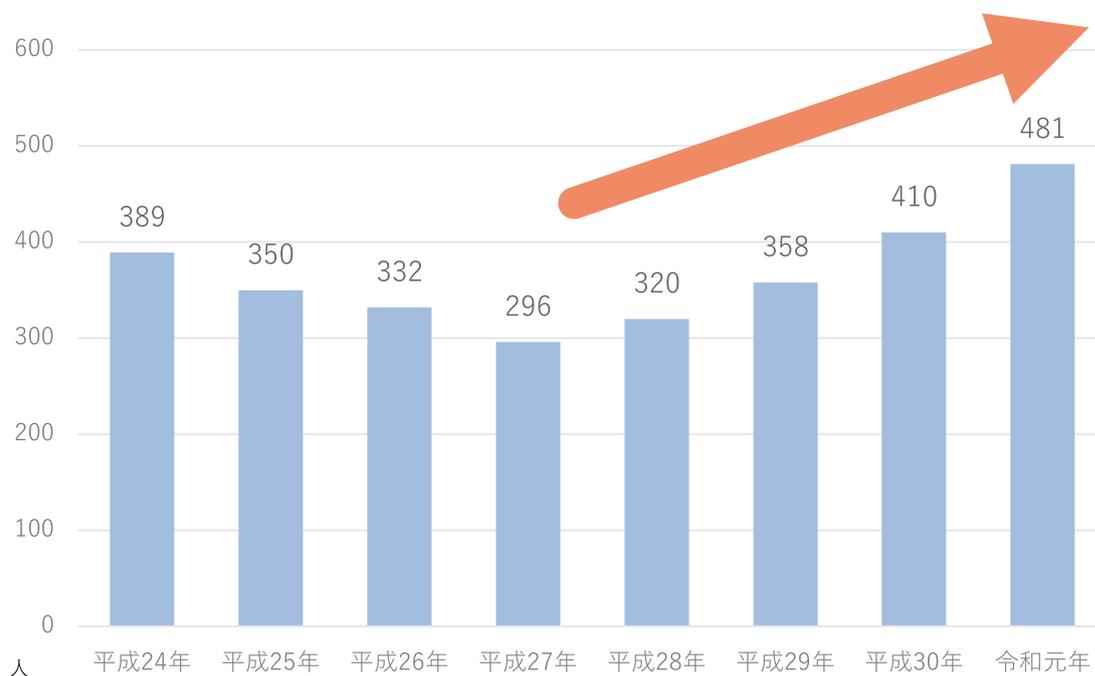
資料：～平成27年 国勢調査
令和2年～ 国立社会保障・人口問題研究所

■外国人の人口について

⇒ 人口減少とは反対に外国人は増加

本町の総人口は減少傾向にありますが、外国人については平成27年から増加傾向にあり、令和元年には、約500人の外国人が入善町に住んでいます。

【図表】外国人の人口の推移



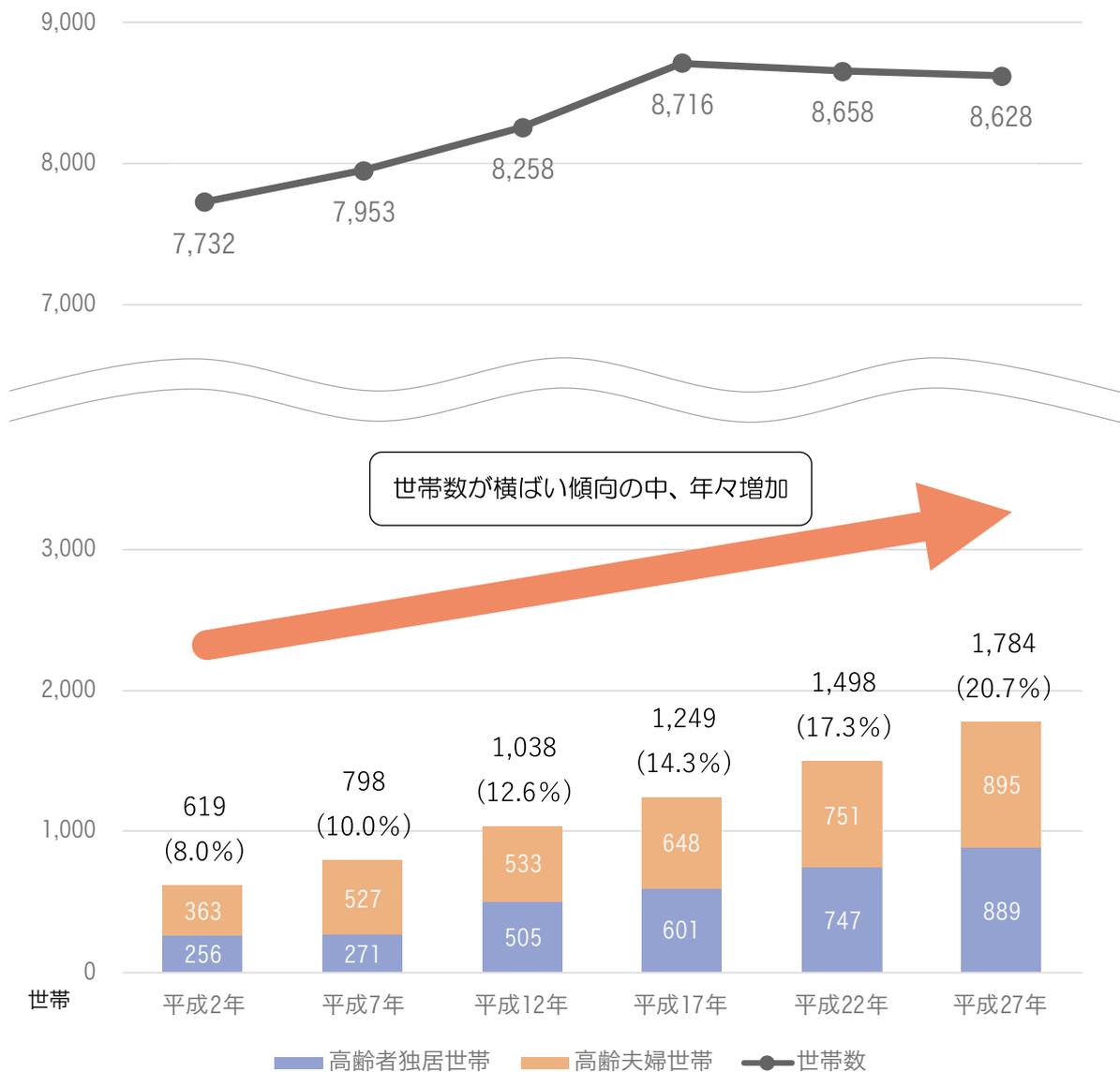
資料：住民基本台帳（10月1日現在）

■世帯状況について

⇒ 高齢者のみの世帯が増加

全世帯数は平成17年以降、横ばい傾向にあるものの、高齢者独居世帯と高齢者夫婦世帯の高齢者のみの世帯については、年々増加しています。

【図表】 高齢者独居世帯と高齢者夫婦世帯の推移



資料：国勢調査
 ※特別養護老人施設等の入所者は棟ごとにまとめて一つの世帯とする
 (おあしす新川、舟見寿楽苑、新川むつみ園等)

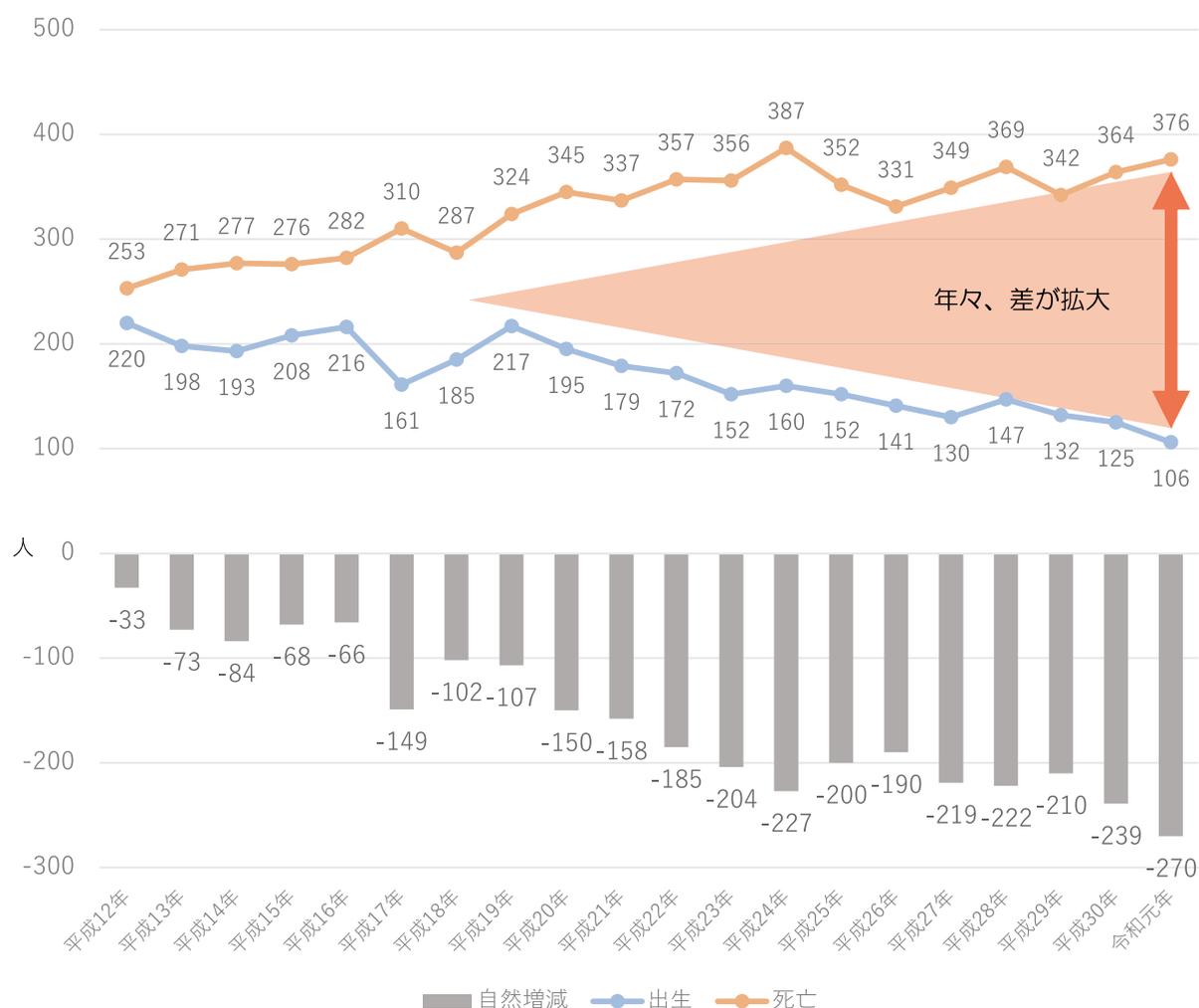
(2) 自然動態について

■出生と死亡について

⇒ 出生数の減少と死亡数の増加により、人口減少は年々拡大

平成12年は、出生数と死亡数の差による人口の減少は33人でしたが、令和元年には270人と、年々差は拡大し、人口減少が進んでいます。

【図表】出生数と死亡数の推移



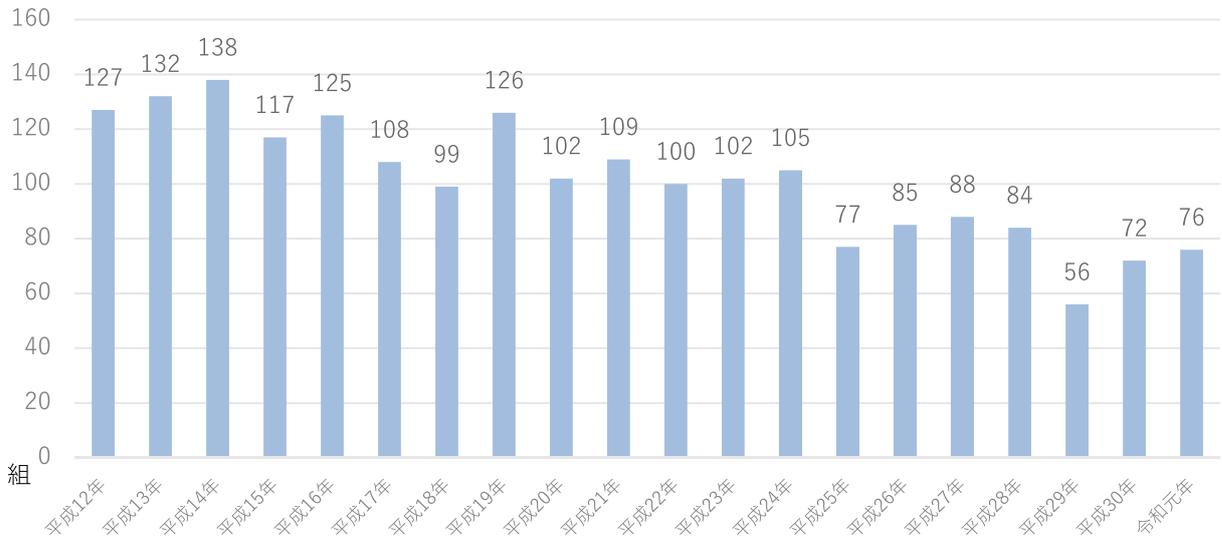
資料：人口移動調査

■結婚について

⇒ 婚姻数は減少傾向

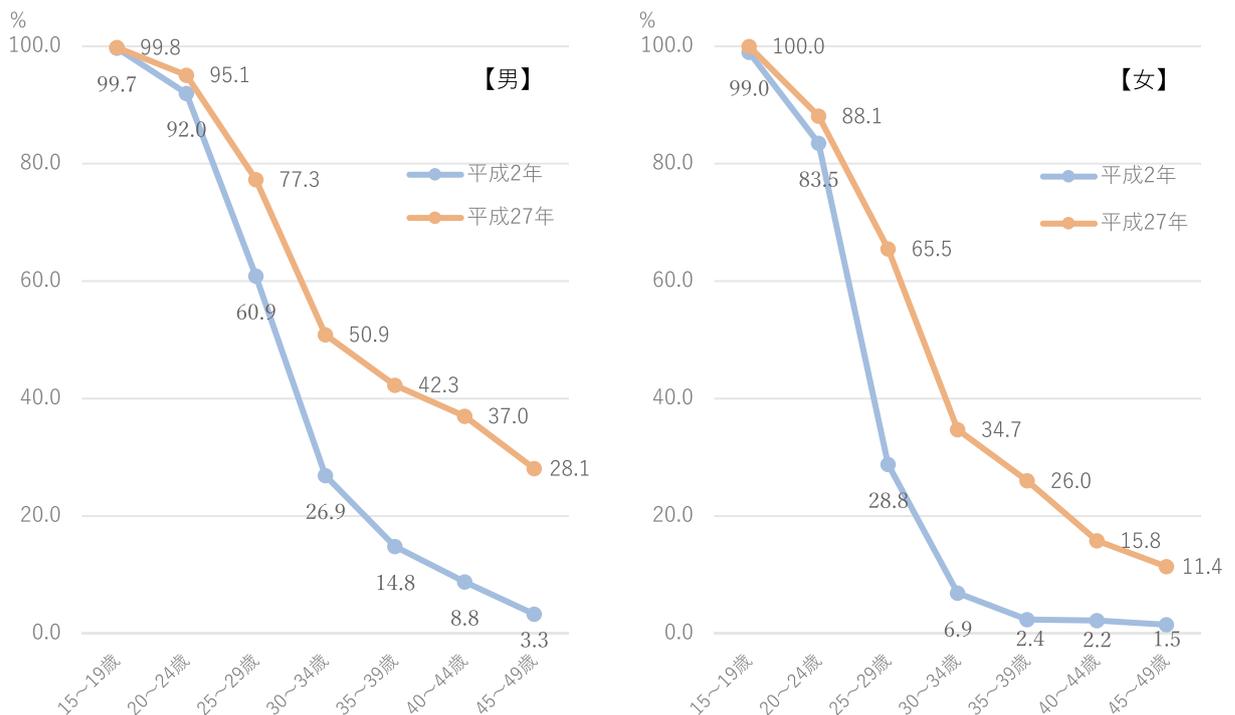
平成12年以降、婚姻数は若干の増減はあるものの、減少傾向にあります。
また、年齢別の未婚率を人口がピークであった平成2年と比較すると、男女ともに各年齢において未婚者の割合が大幅に上昇しています。

【図表】婚姻数の推移



資料：人口動態調査 ※夫の住所を基準とする

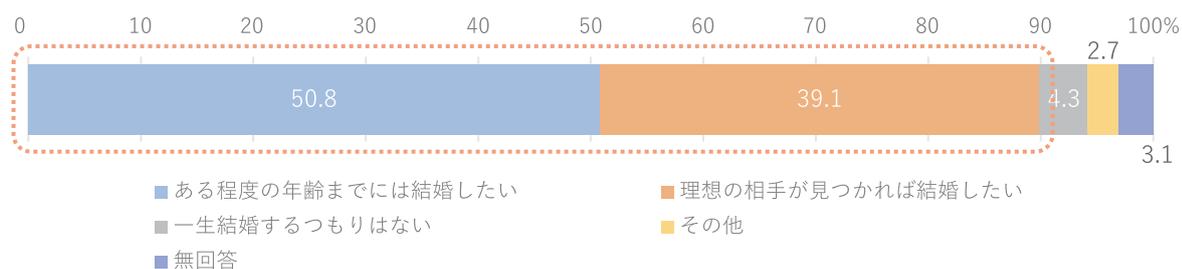
【図表】未婚率（5歳階級別配偶関係）



資料：国勢調査

⇒ 若者の9割が結婚したいという意向を持っている

若者の約9割が結婚を希望しています。結婚希望年齢は、7割以上の方が20歳代のうちに結婚したいと考えています。



【図表】若者意識調査 結婚の意向

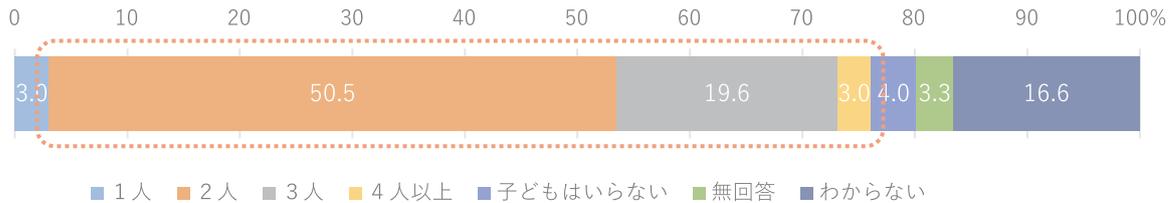


【図表】若者意識調査 結婚希望年齢

■子どもの数について

⇒ 若者の7割以上が2人以上の子どもを持ちたいという意向がある

若者の7割以上が子どもを持ちたいと考えており、理想の子どもの人数は2人以上としています。

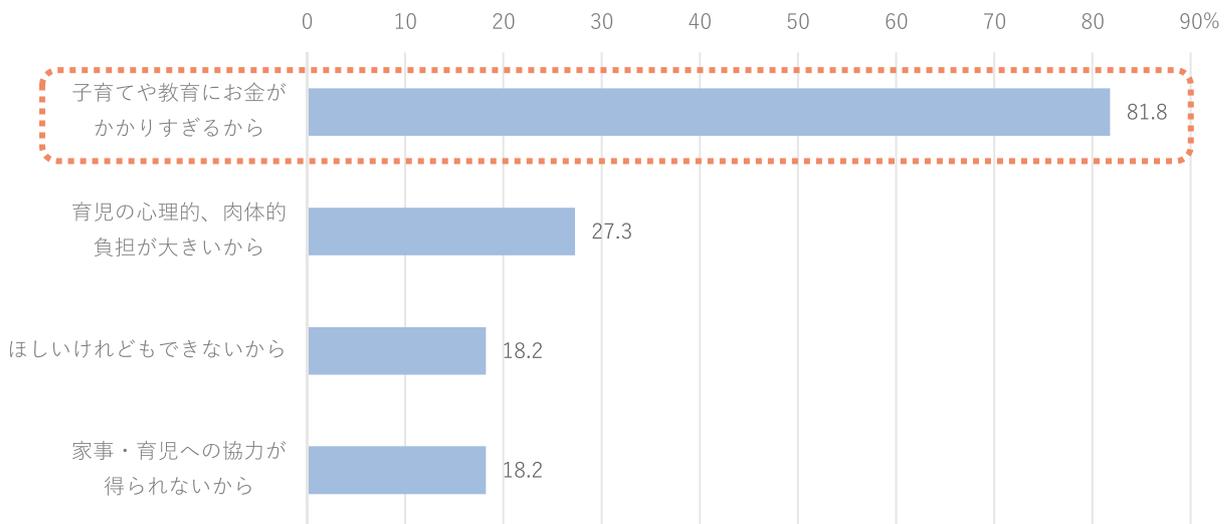


【図表】若者意識調査 理想の子どもの人数

■理想的な子どもの人数より現実に持つ人数が少ない理由

⇒ 子を持つ親の8割以上が「子育てや教育にお金がかかりすぎる」と感じている

出生数の推移から、理想とする子どもの人数と現実には乖離があると推測されるが、その理由については、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が81.8%、次いで「育児の心理的、肉体的負担が大きいから」が27.3%、「ほしいけれどもできないから」「家事・育児への協力が得られないから」が18.2%となっています。



【図表】理想的な人数より現実に持つ子どもの人数が少ない理由（上位項目）

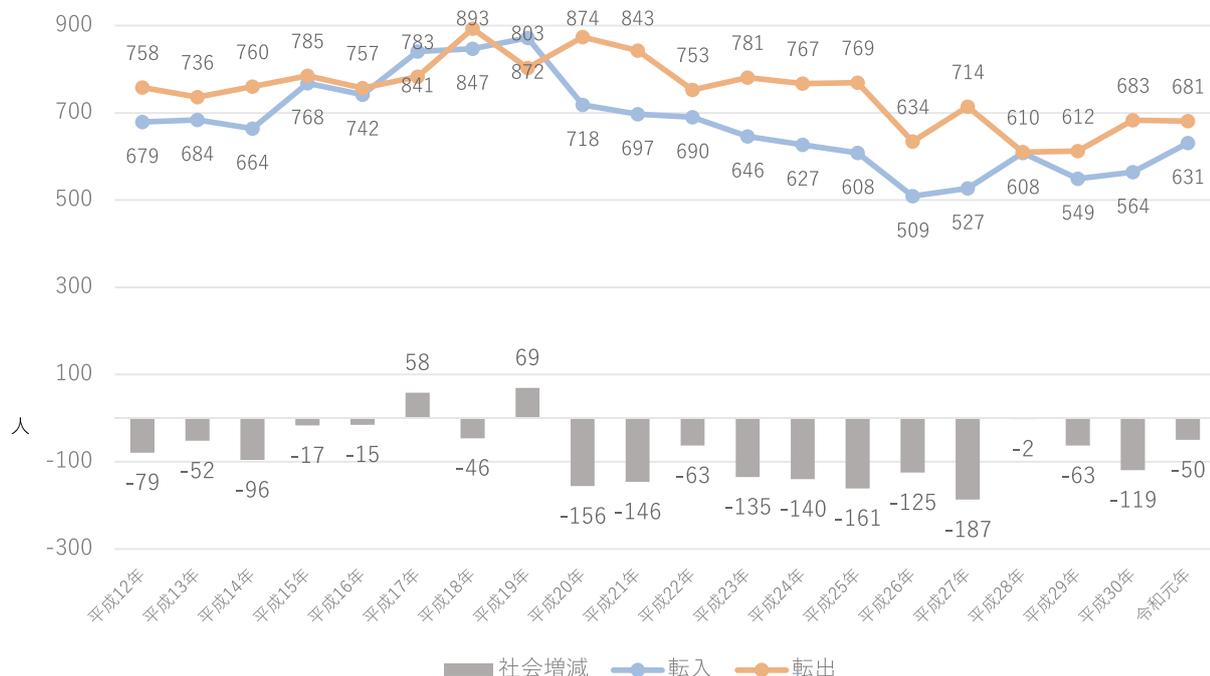
(3) 社会動態について

■ 転入と転出について

⇒ 転入数より転出数が多く、人口減少の大きな要因に

平成20年以降、転入数が減少傾向にあり、転出数が転入数を上回る状況が続いています。

【図表】 転入数と転出数の推移

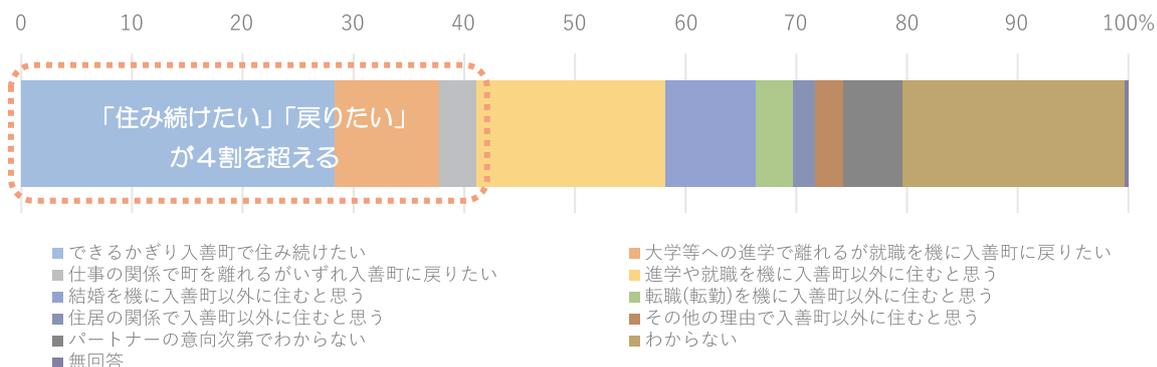


資料：人口移動調査

■ 居住意向

⇒ 若者の居住意向は「住み続けたい」「戻りたい」が約4割

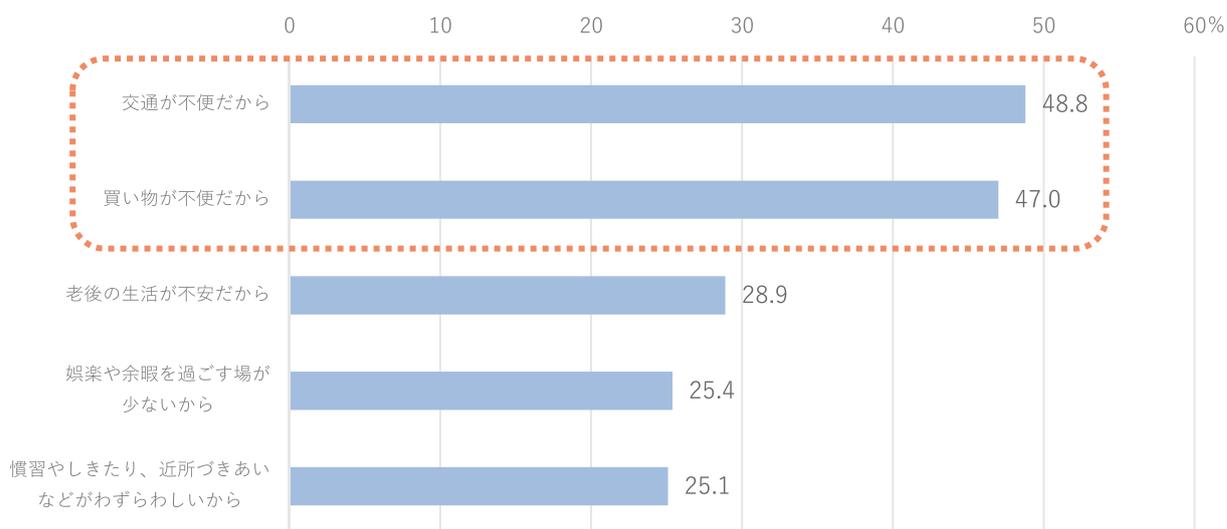
若者意識調査では、入善町への居住意向は、「できるかぎり入善町で住み続けたい」「入善町に戻りたい」の合計が約4割、「入善町以外に住むと思う」が合計で約3割となっています。



【図表】 若者意識調査 入善町居住意向

⇒ 入善町に住みたくない理由は「交通・買い物が不便」が上位

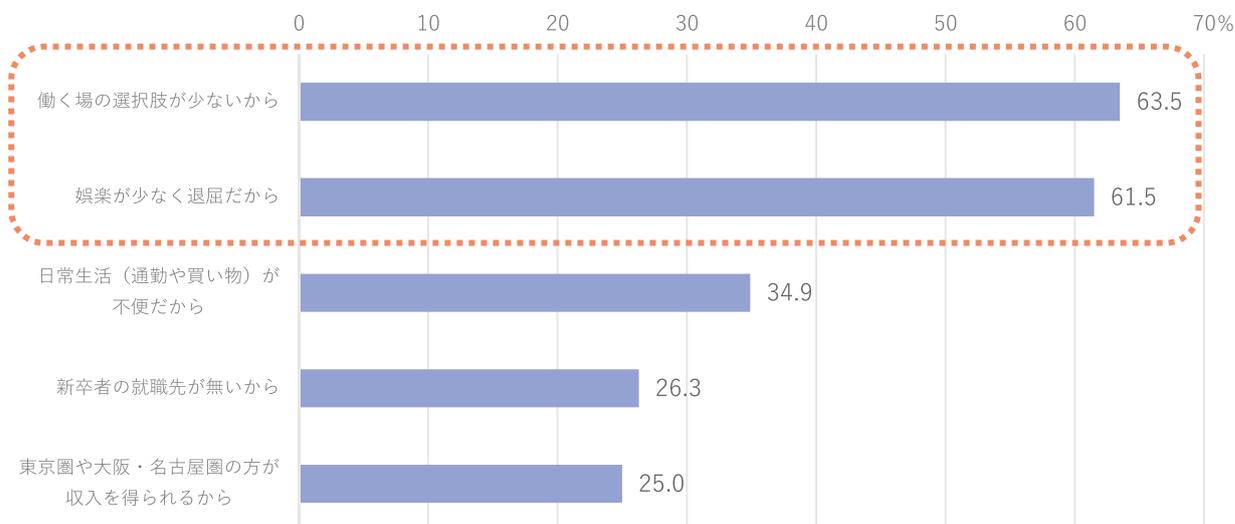
住民意識調査で「今の場所から移りたい」と回答した理由としては、「交通が不便だから」「買い物が不便だから」が上位に挙げられています。



【図表】住民意識調査 入善町に住みたくない理由（上位項目）

⇒ 若者が入善町から出ていく理由は「働く場の選択肢が少ない」「娯楽が少なく退屈」が上位

若者が入善町から出ていく理由としては、「働く場の選択肢が少ないから」「娯楽が少なく退屈だから」が上位に挙がっています。



【図表】若者意識調査 若者が入善町から出ていく理由（上位項目）

(4) 就業の状況について

■産業人口

⇒ 製造業が最も多く、3割を超える

東京都と比較すると、第1、2次産業に従事する者の割合が高い

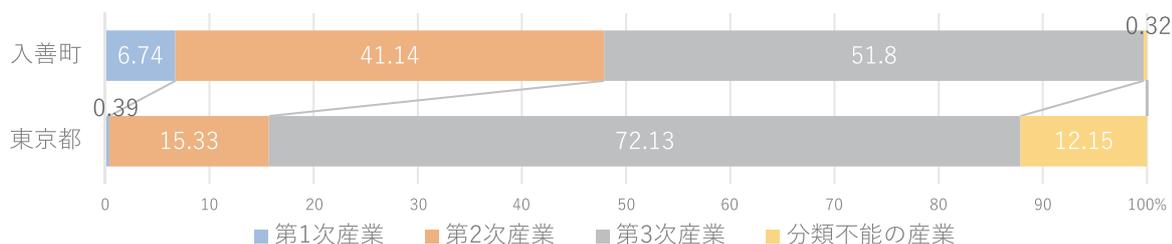
各産業人口を見ると製造業が一番多く、3割を超えています。
特に男性は、建設業などを加えた第2次産業に従事する者が5割を超えています。女性は医療、福祉に従事する者が最も多くなっています。
また、若者の流入が多い東京都と比較すると、入善町は第1、2次産業の割合が高く、第3次産業の割合が低くなっています。

【図表】各産業人口詳細

区分	総数	男	女	構成比 (%)		
				総数	男	女
合計	13,099	7,128	5,971	100.0	100.0	100.0
【第1次産業】	883	594	289	6.7	8.4	4.8
農業、林業	840	557	283	6.4	7.8	4.7
漁業	43	37	6	0.3	0.5	0.1
【第2次産業】	5,387	3,723	1,664	41.2	52.2	27.9
鉱業、砕石業、砂利採取業	7	5	2	0.1	0.1	0.0
建設業	1,207	994	213	9.2	13.9	3.6
製造業	4,173	2,724	1,449	31.9	38.2	24.3
【第3次産業】	6,786	2,788	3,998	51.8	39.1	67.0
電気・ガス・熱供給・水道業	45	38	7	0.3	0.5	0.1
情報通信業	89	59	30	0.7	0.8	0.5
運輸業・郵便業	518	427	91	3.9	6.0	1.5
卸売業・小売業	1,361	562	799	10.4	7.9	13.4
金融業・保険業	207	73	134	1.6	1.0	2.2
不動産、物品賃貸業	73	46	27	0.6	0.7	0.5
学術研究、専門・技術サービス業	179	127	52	1.4	1.8	0.9
宿泊業、飲食サービス業	523	160	363	4.0	2.2	6.1
生活関連サービス業、娯楽業	406	133	273	3.1	1.9	4.6
教育、学習支援業	416	163	253	3.2	2.3	4.2
医療、福祉	1,710	255	1,455	13.0	3.6	24.4
複合サービス業	275	149	126	2.1	2.1	2.1
サービス業（他に分類されないもの）	657	373	284	5.0	5.2	4.8
公務（他に分類されるものを除く）	327	223	104	2.5	3.1	1.7
【分類不能の産業】	43	23	20	0.3	0.3	0.3

資料：国勢調査（平成27年）

【図表】各産業人口 割合の比較



資料：国勢調査（平成27年）

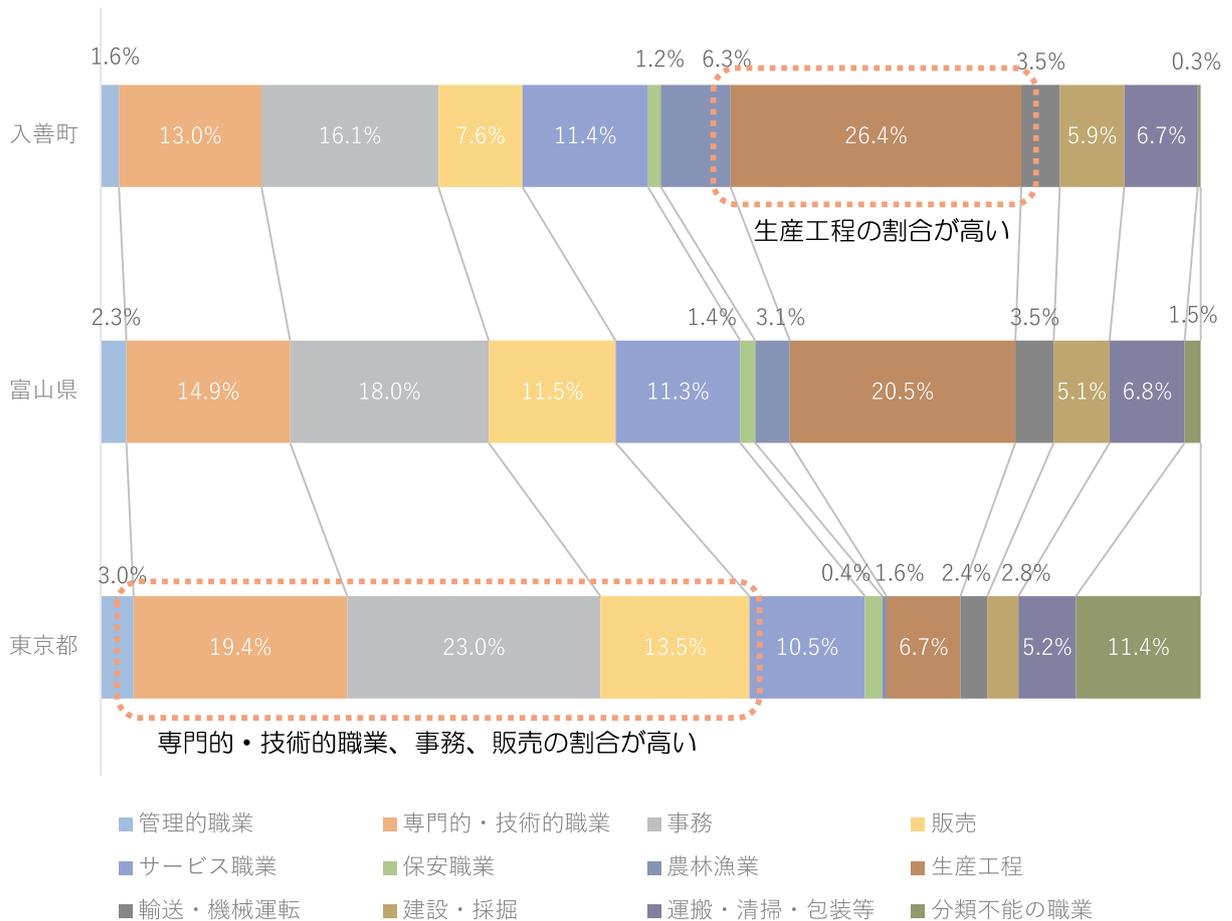
■職種別人口

⇒ 富山県や東京都と比較し、「農林漁業」「生産工程」に従事する者の割合が高く、「事務」「販売」の割合が低い

職種別人口の割合を見ると、「生産工程」の割合が最も高くなっています。また、富山県や東京都と比較すると、「農林漁業」「生産工程」従事者の割合が高く、「専門的・技術的職業」「事務」「販売」の割合が低くなっています。

若者が入善町から出ていく理由として上位に挙げられていた「働く場の選択肢が少ない」と合わせて分析すると、割合の低い「事務」「販売」等の職種に若者のニーズがあるものと考えられます。

【図表】 職種別人口 割合の比較

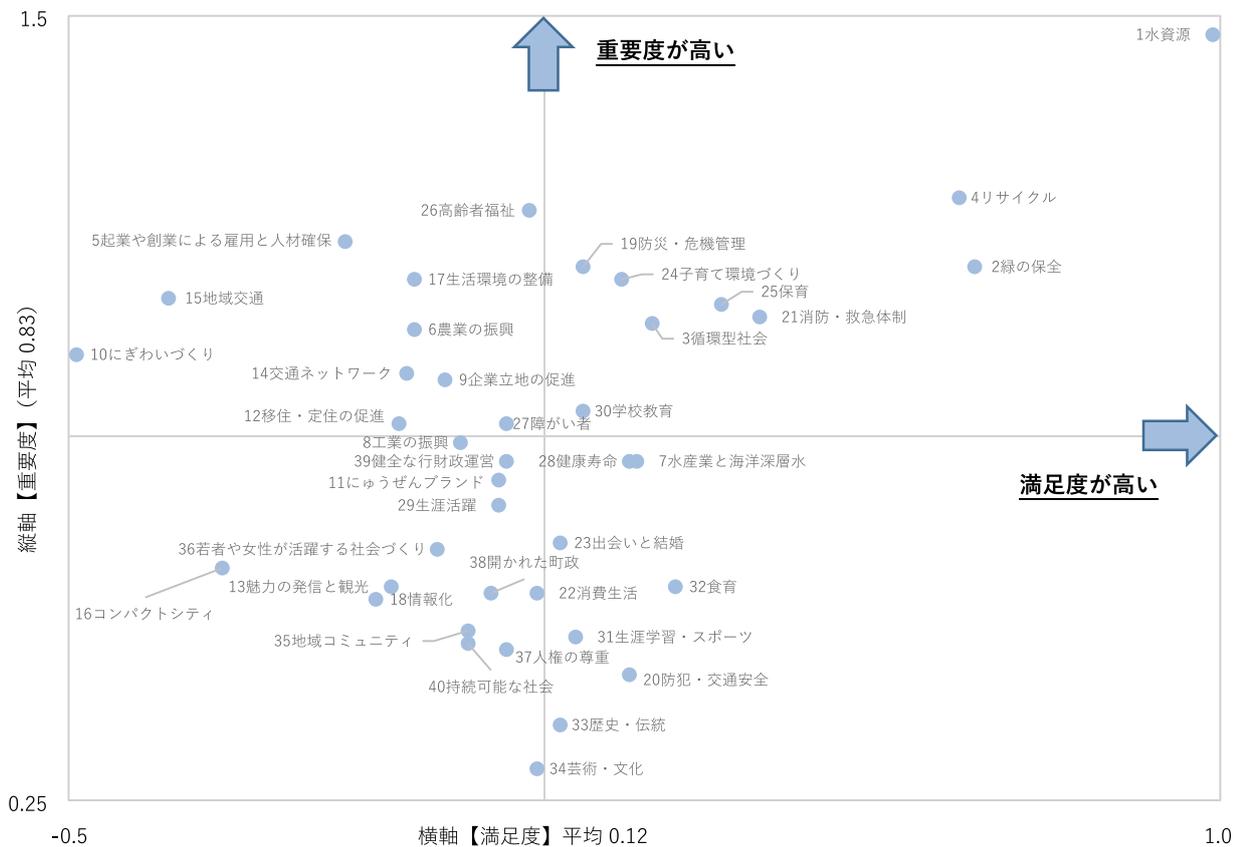


資料：国勢調査（平成27年）

II 第6次総合計画の評価から見る施策の整理

第6次総合計画（平成23年度～令和2年度）の評価を行うため、住民意識調査において当該総合計画の施策に関する「満足度」及び「重要度」を把握しました（全40項目）。

1. 満足度と重要度の相関図



<施策タイプⅠ>

今後の重要度が高いが、
現在の満足度が低いため、

「力を入れて取り組むべき項目」

重要度 (高) / 満足度 (低)

<施策タイプⅡ>

今後の重要度が高いが、
現在の満足度も高いため、

「確実に継続すべき項目」

重要度 (高) / 満足度 (高)

<施策タイプⅢ>

現在の満足度が低いが、
今後の重要度も低いため、

「満足度を向上させるべき項目」

重要度 (低) / 満足度 (低)

<施策タイプⅣ>

現在の満足度が高いが、
今後の重要度は低いため、

「現状維持を図るべき項目」

重要度 (低) / 満足度 (高)



2. 「満足度」の上位10項目及び下位10項目

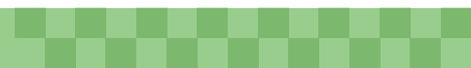
順位	項目	評点
1	豊かな水資源の保全	0.99
2	豊かな緑の保全	0.68
3	リサイクルの推進	0.66
4	消防・救急体制の充実	0.40
5	保育の充実	0.35
6	食育の推進	0.29
7	持続可能な循環型社会の構築	0.26
8	水産業の振興と海洋深層水の活用	0.24
9	防犯・交通安全体制の推進	0.23
10	健康寿命の延伸	0.23

順位	項目	評点
40	市街地のにぎわいづくりと商業の振興	-0.49
39	地域交通の充実	-0.37
38	コンパクトシティの実現	-0.30
37	起業や創業による新たな雇用の創出と人材の確保	-0.14
36	情報通信等の発達と地域情報化の推進	-0.10
35	魅力の発信と観光の振興	-0.08
34	移住・定住の促進による新たな人の流れの創出	-0.07
33	交通ネットワークの整備	-0.06
32	生活環境の整備	-0.05
31	若者や女性が活躍する社会づくり	-0.02

3. 「重要度」の上位10項目及び下位10項目

順位	項目	評点
1	豊かな水資源の保全	1.47
2	リサイクルの推進	1.21
3	高齢者福祉の充実	1.19
4	起業や創業による新たな雇用の創出と人材の確保	1.14
5	豊かな緑の保全	1.10
6	防災・危機管理体制の充実	1.10
7	子育て支援と産み育てやすい環境づくりの推進	1.08
8	生活環境の整備	1.08
9	地域交通の充実	1.05
10	保育の充実	1.04

順位	項目	評点
40	芸術・文化の振興	0.30
39	歴史・伝統・文化財の保存と継承	0.37
38	人権の尊重の啓発	0.49
37	持続可能な社会の実現に向けての取組みの推進	0.50
36	生涯学習・スポーツの推進	0.51
35	地域コミュニティの活性化の推進	0.52
34	情報通信等の発達と地域情報化の推進	0.57
33	安全・安心な消費生活の推進	0.58
32	町民と行政の協働と開かれた町政の推進	0.58
31	食育の推進	0.59

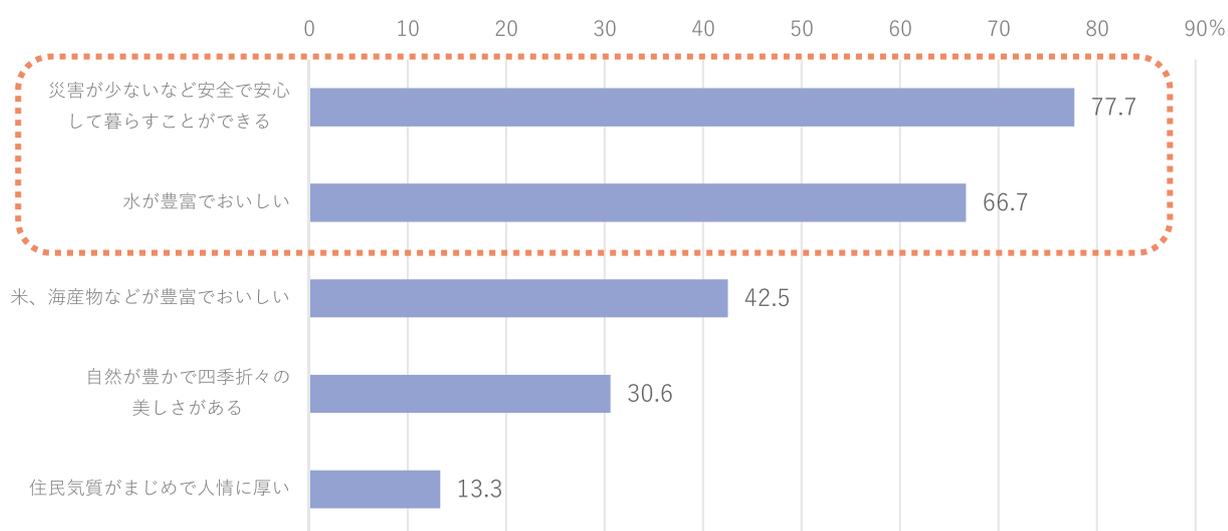


4. 入善町の強み・弱み

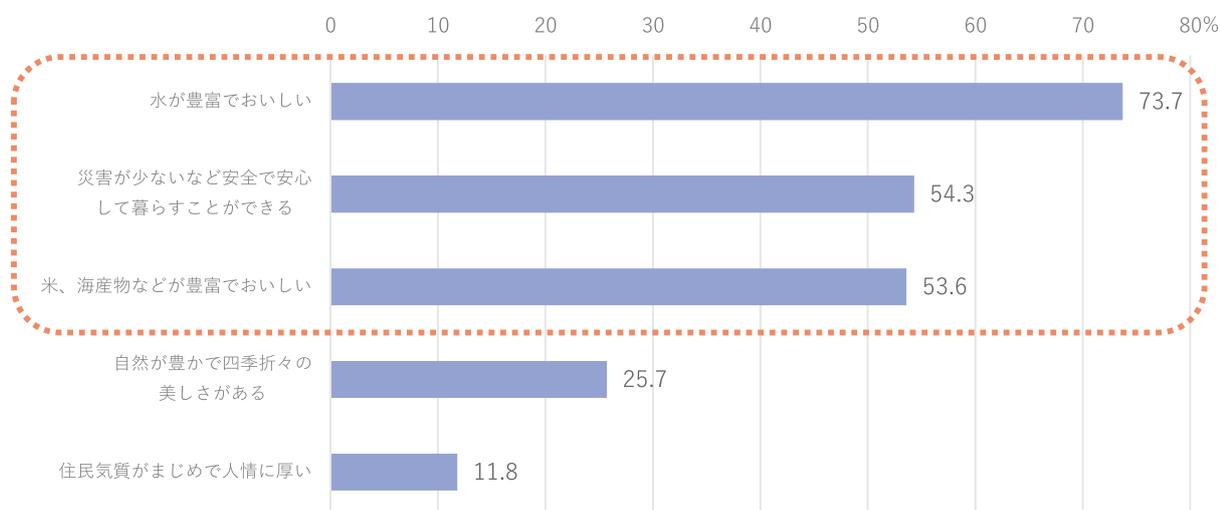
■入善町の良い点・強み

⇒ 「安全で安心な暮らし」と「豊富でおいしい水・米・海産物」が入善町の良い点・魅力

住民意識調査・若者意識調査ともに、良い点や魅力については、「災害が少ないなど、安全で安心して暮らすことができる」が7割を超え、「水が豊富でおいしい」「米、海産物などが豊富でおいしい」も上位に挙げられています。



【図表】住民意識調査 入善町で生活する中での良い点や魅力（上位項目）

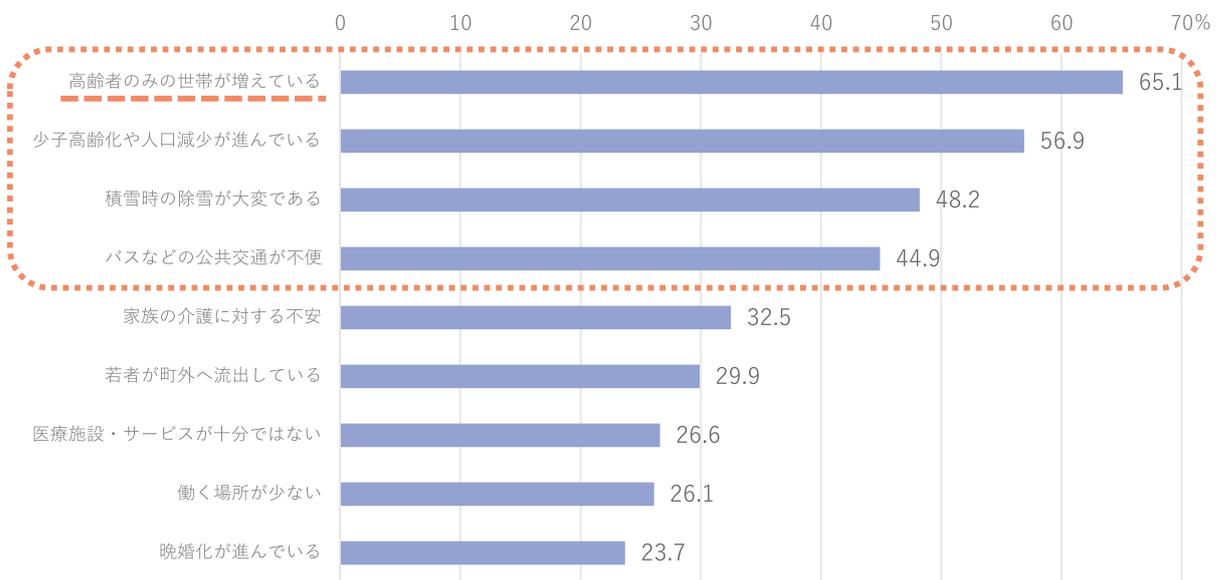


【図表】若者意識調査 入善町で生活する中での良い点や魅力（上位項目）

■入善町の問題点・弱み

⇒ 「少子高齢化・人口減少」「公共交通の不便さ」を問題としている。

問題点について、住民意識調査では、「高齢者のみの世帯が増えている」「少子高齢化や人口減少が進んでいる」「積雪時の除雪が大変である」「バスなどの公共交通が不便」などが上位に挙げられています。若者意識調査では、「少子高齢化や人口減少が進んでいる」「積雪時の除雪が大変である」「バスなどの公共交通が不便」「働く場所が少ない」などが上位に挙げられています。



【図表】住民意識調査 入善町で生活する中での問題点（上位項目）



【図表】若者意識調査 入善町で生活する中での問題点（上位項目）

5. 求められる将来像

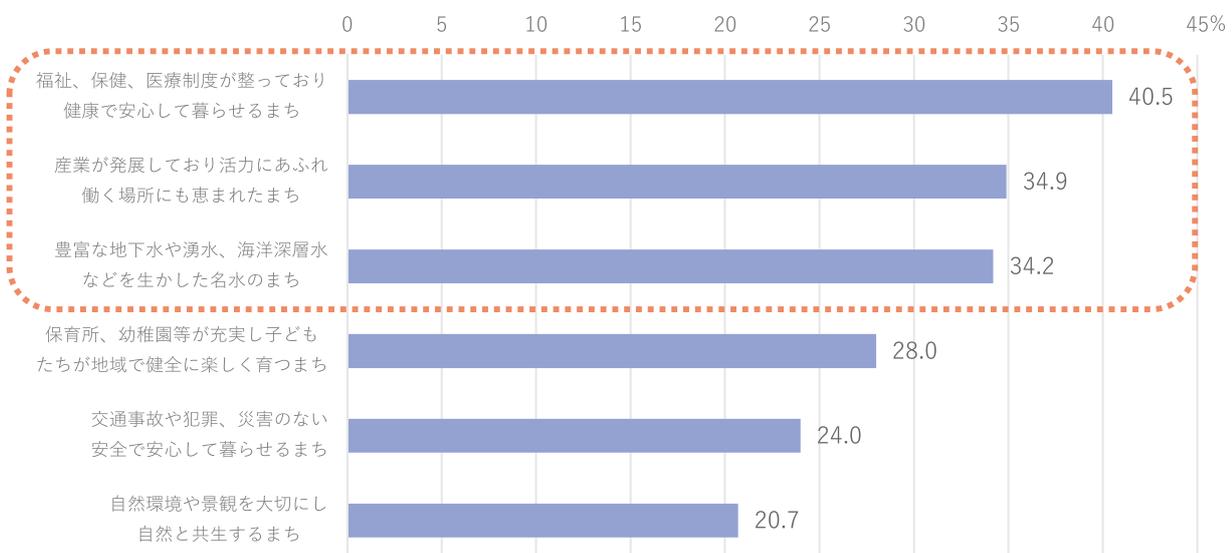
⇒ 町の将来像は「健康で安心して暮らせるまち」「名水のまち」「働く場所にも恵まれたまち」が上位

住民意識調査・若者意識調査ともに、入善町の将来像は、「福祉、保健、医療制度が整っており、健康で安心して暮らせるまち」「豊富な地下水や湧水、海洋深層水などを生かした名水のまち」「産業が発展しており、活力にあふれ、働く場所にも恵まれたまち」が上位に挙げられています。

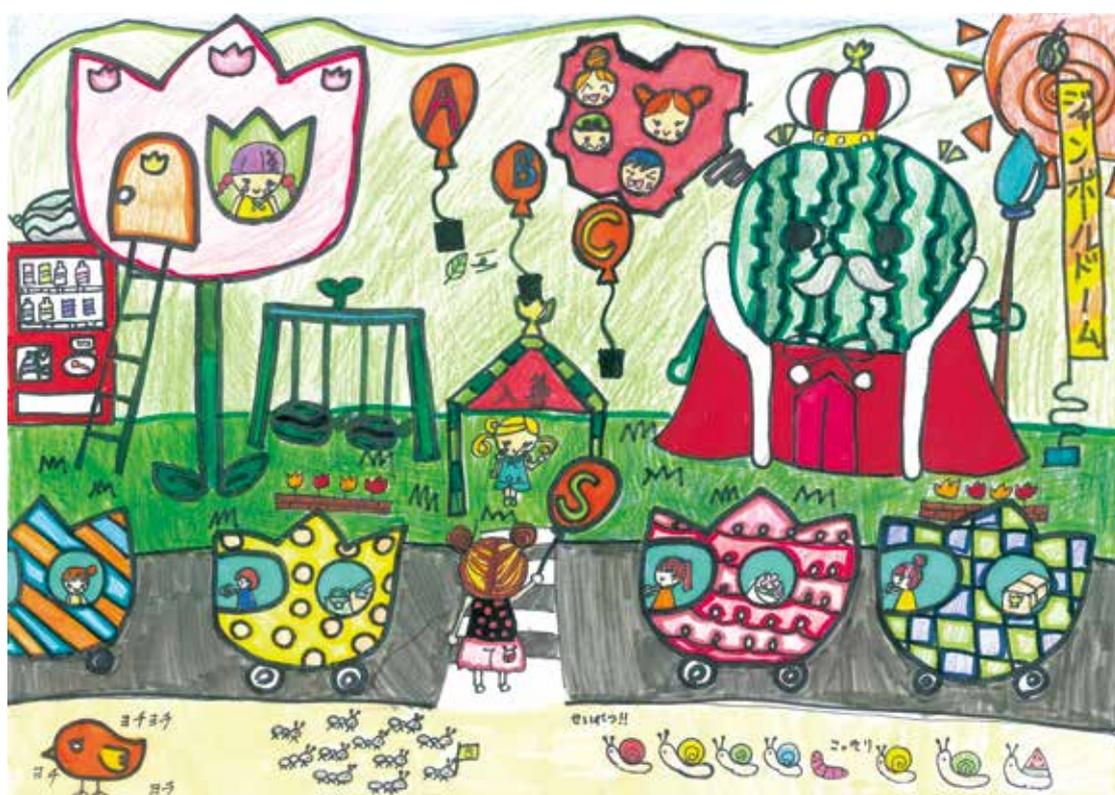
そのほか、「交通事故や犯罪、災害のない、安全で安心して暮らせるまち」「自然環境や景観を大切にし、自然と共生するまち」「保育所、幼稚園等が充実し、子どもたちが地域で健全に楽しく育つまち」が上位に挙がっています。



【図表】住民意識調査 入善町の将来像（上位項目）



【図表】若者意識調査 入善町の将来像（上位項目）



「えがおが1番入善町」

飯野小学校4年 藤澤 真理さん

Ⅲ 入善町を取り巻く時代の潮流と影響

入善町を取り巻く社会、経済、環境の変化として以下のようなことが想定されます。これらの影響を「機会」と「脅威」の視点から整理しました。

1. 人口減少の加速と超少子高齢社会の到来

脅威

- ・ 晩婚化、晩産化、非婚化などによる出生数の減少
- ・ 東京圏への人口の一極集中、地方から都市部への若者の流出
- ・ 生産年齢人口の減少や地域経済の縮小、社会保障費の増加による地方財政への悪影響
- ・ 地域の担い手不足などによるコミュニティの衰退
- ・ 高齢者のみ世帯や単身世帯の増加

2. 高度情報化の進展と技術革新による Society5.0 社会の到来

機会

- ・ 情報通信技術の普及による情報発信手法の多様化
- ・ AI、IoT、ビッグデータ、5G などの最新技術の活用
- ・ 技術革新による課題解決や新たな価値の創出

3. 持続可能な都市基盤・環境保全の重要性の高まり

機会

脅威

- ・ 人口減少に伴う空き家・空き地の増加
- ・ 公共施設や道路、下水道などの都市基盤の老朽化
- ・ 効率的な施設維持や集約化など、コンパクトシティの重要性の高まり
- ・ 全国的に多発する自然災害に対する防災・安全意識の高まり
- ・ 地球温暖化対策や再生可能エネルギーの推進などによる持続可能な社会の必要性の高まり
- ・ 国を挙げた SDGs の達成に向けた取組みの推進

4. 首都圏などにおける地方回帰気運の高まり

機会

- ・ サテライトオフィスやテレワーク、二地域居住、ワーケーションなどの多様な働き方や新しいライフスタイルの浸透と地方移住機運の高まり
- ・ 関係人口の創出・拡大に対する気運の高まり
- ・ 北陸新幹線金沢・敦賀間延伸による関西圏とのアクセス性の向上

5. 多様な人材が活躍できる環境づくりの重要性の高まり

機会

- ・女性の活躍推進や高齢者の生涯現役社会の実現に向けた機運の高まり
- ・国際化や多文化共生社会への対応の必要性の高まり
- ・外国人労働者の増加

6. 求められる地方創生の推進

機会

脅威

- ・急激な社会変化や将来を見据えた柔軟な対応と町政運営の必要性の高まり
- ・地方創生に伴う地域間競争の激化
- ・広域連携や民間活力を活かしたまちづくりの必要性の高まり
- ・町民参画・協働の重要性の高まり

IV 課題の整理

入善町の現状や課題を明らかにするため、時代の潮流の把握とあわせて、住民意識調査、若者意識調査、まちづくりワークショップ、事業所ヒアリング、モニタリング調査を実施し、入善町の「強み」「弱み」「機会」「脅威」を抽出しました。

1. 入善町の「強み」「弱み」「機会」「脅威」

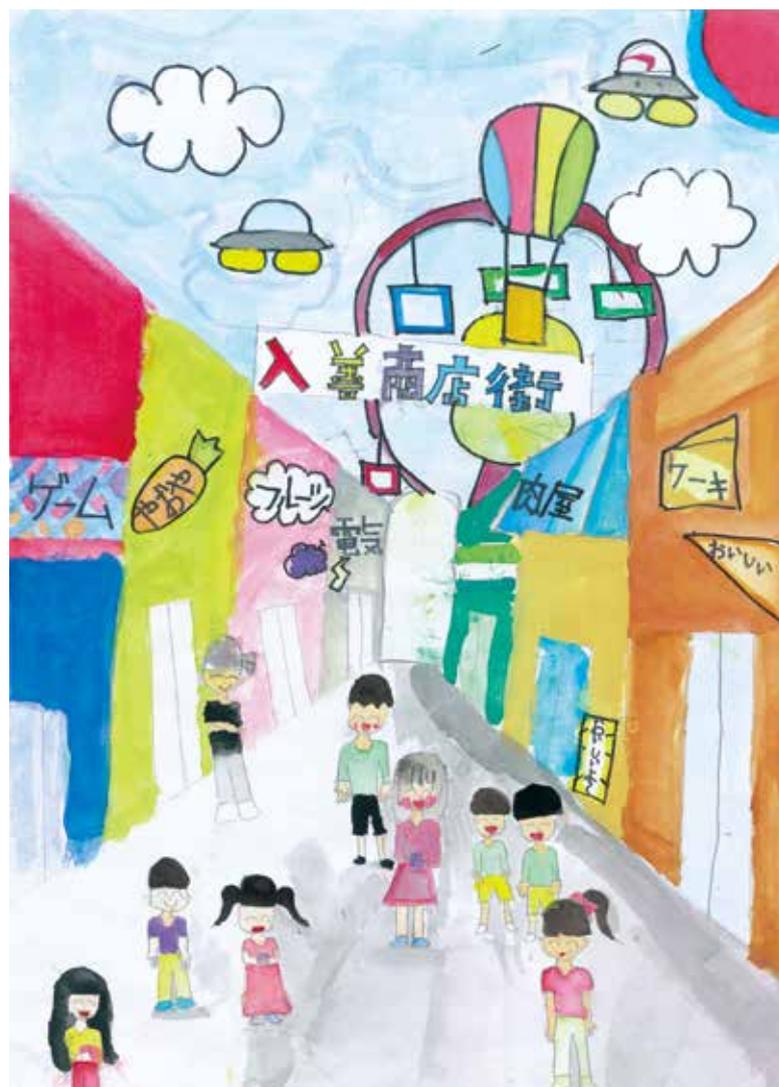
入善町の“強み”	入善町の“弱み”
<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな水資源がある ・豊かな自然環境や景観がある ・米や海産物がおいしい ・自然災害が少ない ・農業先進地域である ・再生可能エネルギーを積極的に活用している ・勤勉な町民性 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者のみの世帯が増加している ・担い手や人材が不足している ・働く場の選択肢が少ない ・娯楽や余暇を過ごす場所が少ない ・公共交通が不便 ・市街地や商店街の衰退 ・PR や情報発信が不足している ・観光資源を活かしきれていない など
入善町の“機会”	入善町の“脅威”
<ul style="list-style-type: none"> ・首都圏などにおける地方回帰の機運の高まり ・国を挙げた SDGs の推進 ・Society5.0 に向けた技術革新の推進 ・通信技術の普及による情報発信手法の多様化 ・国際化や多文化共生社会の機運の高まり ・北陸新幹線金沢・敦賀間延伸 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少・少子高齢化の進行 ・生産年齢人口の減少 ・東京圏への人口の一極集中 ・社会保障費の増加 ・空き家・空き地の増加 ・全国的に多発する自然災害 ・社会基盤や公共施設等の老朽化 など

2. SWOT 分析から見る取り組むべきまちづくりの視点

入善町の「強み (Strengths)」「弱み (Weaknesses)」「機会 (Opportunities)」「脅威 (Threats)」の4つの要素を【強み×機会】【強み×脅威】【弱み×機会】【弱み×脅威】に組み合わせ、SWOT分析を行いました。この分析を踏まえ、これから入善町が取り組むべきまちづくりの視点として、基本計画における「政策の柱」に反映しました。

	機会	脅威
強み	<p>【強み×機会】</p> <p>“強みを生かして機会を勝ち取る”</p>	<p>【強み×脅威】</p> <p>“強みを生かして脅威を機会に”</p>
弱み	<p>【弱み×機会】</p> <p>“弱みを補強して機会をつかむ”</p>	<p>【弱み×脅威】</p> <p>“弱みを知り脅威を回避”</p>

まちづくりの視点として基本計画の「政策の柱」に反映



「未来のキラキラ商店街」

飯野小学校4年 細田 柚葉さん